

記事を読んで、問いに答えましょう。

①静岡県が首都圏の消費者を対象に行った茶の飲用実態調査で明らかになったことを書きなさい。

②急須で茶を飲む層が減少している背景を説明しなさい。

③急須によるお茶の魅力伝えていくための対策について、あなたの考えを述べなさい。

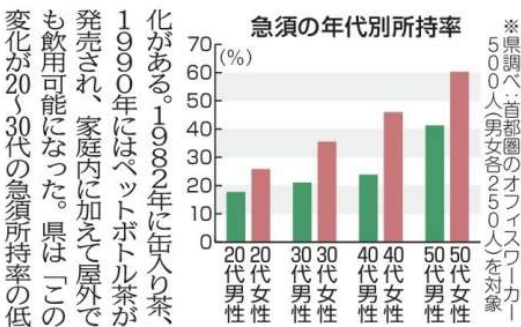
20代男性の8割以上は急須を持っていない。県が首都圏の消費者を対象に行った茶の飲用実態調査で、若年層のリーフ茶離れの傾向が明らかになった。県は、ペットボトルやティーバッグなどへの飲用形態の多様化が消費低迷の要因と分析。「消費拡大には、オフィスでの消費や新たな飲用習慣の提案が必要」と指摘する。

首都圏で県調査

オフィスでの需要掘り起こし狙う

「急須ない」20代男性の8割超

を調べた。年代別・性別の急須所持率は、50代女性の60・3%が最高で、40代女性46・0%、50代男性41・3%と続く。女性は20代(25・8%)が最も低く、男女ともに若年層の急須離れが顕著だった。都内で茶や茶器の小売店「茶雑菓」を運営する茶関連包装資材メーカー「吉村(東京)の橋本久美子



社長は「茶どころ静岡と都市部では茶への意識が全く異なる」と指摘。その上で「都市部はリーフ茶になじみのない層が大多数。この層をエン트리ユーザーとしてつかめるかに業界の将来がかかっている」と強調する。

急須で茶を飲む層が減少している背景には、緑茶の消費形態の変化がある。1990年には缶入り茶、1990年にはペットボトル茶が発売され、家庭内に加えて屋外でも飲用可能になった。県は「この変化が20、30代の急須所持率の低下と相関性がある」とみる。

潮流はオフィスでの茶消費にも及ぶ。首都圏に本社を置く350社への調査では、外部来訪者に提供する飲料は緑茶(84・6%)が最も多く、ミネラルウォーター(55・1%)やコーヒー(28・2%)より優位にある。ただ、緑茶の提供方法はペットボトル(68・2%)が主流で、急須(9・1%)は1割に満たない。

県は調査結果を踏まえた消費拡大策として昨年度、NTT西日本静岡支店の各オフィスで呈茶・販売イベントを開催。社員が生産者と対面しながら緑茶の香りや滋味を味わった。本年度は実施企業を広げ、職場での茶消費の掘り起こしを進める。

(経済部・垣内健吾)

20代男性の8割以上は急須を持っていない。県が首都圏の消費者を対象に行った茶の飲用実態調査で、若年層のリーフ茶離れの傾向が明らかになった。県は、ペットボトルやティーバッグなどへの飲用形態の多様化が消費低迷の要因と分析。「消費拡大には、オフィスでの消費や新たな飲用習慣の提案が必要」と指摘する。

首都圏で県調査

調査は首都圏のオフィスワーカー1500人(男女各750人)に実施。家庭におけるドリンクの飲用種別や職場での緑茶の消費実態

オフィスでの需要掘り起こし狙う

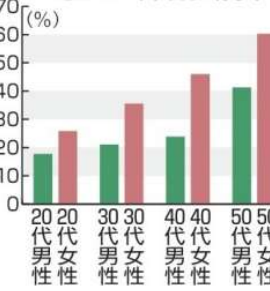
「急須ない」20代男性の8割超

を調べた。年代別・性別の急須所持率は、50代女性の60・3%が最高で、40代女性46・0%、50代男性41・3%と続く。女性は20代(25・8%)が最も低く、男女ともに若年層の急須離れが顕著だった。都内で茶や茶器の小売店「茶雑菓」を運営する茶関連包装資材メーカー「吉村(東京)の橋本久美子

社長は「茶どころ静岡と都市部では茶への意識が全く異なる」と指摘。その上で「都市部はリーフ茶になじみのない層が大多数。この層をエン트리ユーザーとしてつかめるかに業界の将来がかかっている」と強調する。

急須で茶を飲む層が減少している背景には、緑茶の消費形態の変化がある。1990年には缶入り茶、1990年にはペットボトル茶が発売され、家庭内に加えて屋外でも飲用可能になった。県は「この変化が20、30代の急須所持率の低下に繋がっている」とみる。

急須の年代別所持率



※県調べ、首都圏のオフィスワーカー5000人(男女各2500人)を対象

さと相関性がある」とみる。

潮流はオフィスでの茶消費にも及ぶ。首都圏に本社を置く350社への調査では、外部来訪者に提供する飲料は緑茶(84・6%)が最も多く、ミネラルウォーター(55・1%)やコーヒー(28・2%)より優位にある。ただ、緑茶の提供方法は、ペットボトル(68・2%)が主流で、急須(9・1%)は1割に満たない。

県は調査結果を踏まえた消費拡大策として昨年度、NTT西日本静岡支店の各オフィスで呈茶・販売イベントを開催。社員が生産者と対面しながら緑茶の香りや滋味を味わった。本年度は実施企業を広げ、職場での茶消費の掘り起こしを進める。

(経済部・垣内健吉)

記事を読んで、問いに答えましょう。

①静岡県が首都圏の消費者を対象に行った茶の飲用実態調査で明らかになったことを書きなさい。

(例)

若年層がリーフ茶離れの傾向にあり、急須も所持していない割合が高いこと。

②急須で茶を飲む層が減少している背景を説明しなさい。

(例)

1982年に缶入り茶が発売されたり、90年にはペットボトル茶が発売されたりするなど、緑茶の消費形態が家庭内に加えて屋外でも飲用可能になるように変化してきたから。

③急須によるお茶の魅力を伝えていくための対策について、あなたの考えを述べなさい。

(例)

・学校現場に日本茶インストラクターの方を呼んで、おいしいお茶の入れ方を学ぶ機会を増やしていくこと。

・職場で呈茶・販売イベントを開催するなど、社員が生産者と対面しながら緑茶の香りや滋味を味わう機会を設けること。

など